

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 第6号 平成15年5月1日発行

発行所: 中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

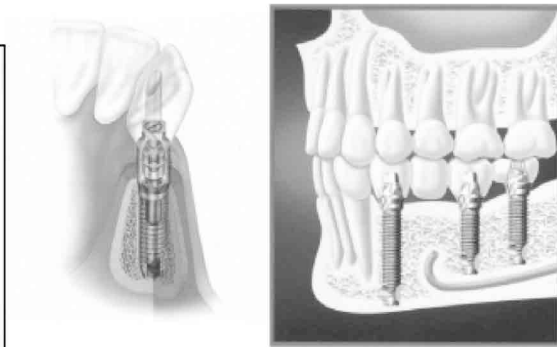
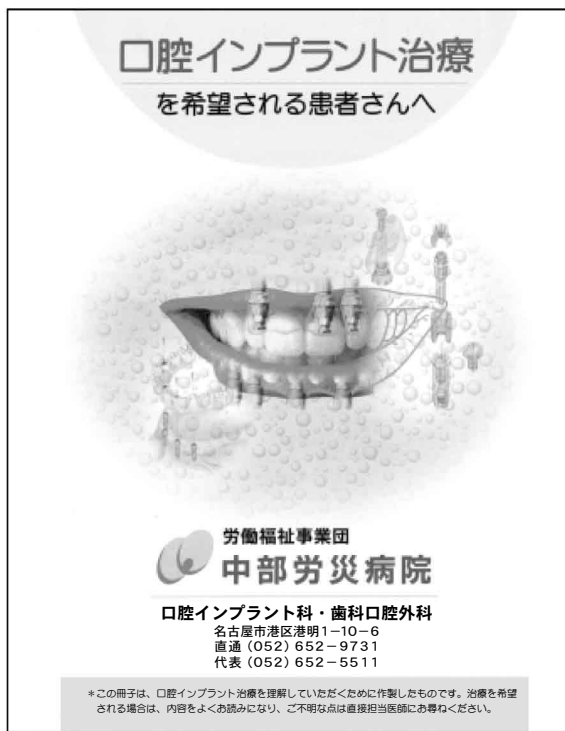
◆ 口腔インプラント治療 ◆

実際に、義歯を装着している患者がインプラント治療について知った時、その多くは治療を希望し、歯科医療施設を訪れる。患者は、義歯の装着感や機能性に対する不満を訴え、自分もインプラント治療を受けたいと申し出ることになる。

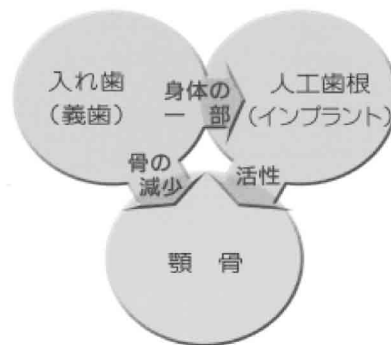
しかしながら、すべての欠損症例に対して、インプラント治療が容易に適応できるとは限らない。

口腔インプラント科・歯科口腔外科 鈴木 英治

患者さん手渡し用パンフレット (表紙)



身体とインプラント



口腔インプラント科・歯科口腔外科からの御案内

- インプラント治療をはじめとして、症例相談は随時可能です。
- 手術日は、水曜日午後と木曜日になります。見学御希望の際は、事前に御連絡下さい。
- CT検査・血液検査等の術前検査の御依頼も可能です。
- 骨移植を伴うサイナスリフト・顎堤形成術・onlay graft の必要な場合も手術可能です。
- GC社製およびブローネマルク・システム・インプラントを採用しています。
- 外来診療は、原則的に予約制です。

インプラント治療費用

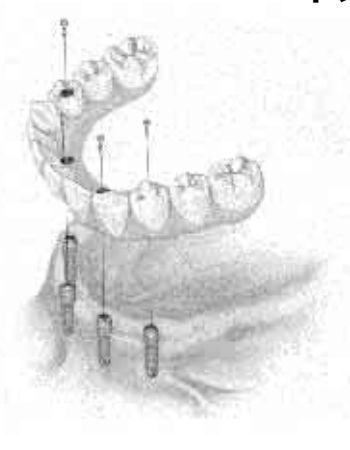
インプラント費用 = 手術関連費 + 補綴関連費

手術関連費 = 人工歯根（フィクスチャー） × 本数

補綴関連費 = 回復歯（欠損部） × 歯数

*人工歯根の本数と回復歯数は必ずしも一致しません。

インプラントの病診連携によって可能になったこと



- ① インプラント手術と補綴治療の分担ができる。
- ② 病院施設の利用が可能。
- ③ 手術の見学・指導が可能。
- ④ 骨移植等の困難症例の治療が可能。
- ⑤ 症例検討が協同でできる。
- ⑥ 患者にアピールできる。

一般に、歯科治療は直接生命に関わる疾患ではないため、患者さんの治療に対する安易な考え方が気になることがあります。

食べなければ生きていけない人間にとって、歯は最も大切な消化器官の一つです。歯の疾患は決して自然に治ることはありません。

たかが虫歯や歯槽膿漏とあなどらないで、早期にしっかりと最高の治療をすることが大切です。

口腔インプラント科・歯科口腔外科

【外来診療は予約制】

*インプラントの初診は 予約制で月・水曜の午後

	月	火	水	木	金
午前 (8:45~)	鈴木 部長 鎌田 医師	小田 医師 鎌田 医師	鈴木 部長 小田 医師	口腔ケア外来 (手術)	小田 医師 鎌田 医師
午後 (1:30~)	鈴木 部長 鎌田 医師	鈴木 部長 小田 医師 鎌田 医師	鈴木 部長 小田 医師 鎌田 医師	手術	小田 医師 鎌田 医師

内科的、外科的に関わる 産婦人科疾患

中部労災産婦人科部長 加藤 千豊



産婦人科は特別な診療科と捉えられがちですが、実際は婦人科内科的な要素を多分に含んでいます。内科的或いは、外科的に診断がつかず、婦人科に依頼されることもしばしばあります。内科的症状を呈する婦人科疾患を挙げてみますと、次のようになります。

1. 貧血—子宮筋腫、子宮内膜症(子宮腺筋症)、
2. 下腹痛—卵管炎、骨盤腹膜炎、子宮内膜症(チョコレート 嚢腫破裂)、卵巣嚢腫、茎捻転、子宮外妊娠、卵巣出血、月経困難症、便秘
3. 腹部腫瘤、膨満—子宮筋腫、卵巣腫瘍、癌



性腹膜炎(卵巣癌)

4. のぼせ、イライラ、頭痛、高血圧—更年期障害
5. 多毛、にきび、肥満—多嚢胞性卵巣、卵巣機能不全

内科疾患によく合併する婦人科疾患もしばしば認められ、特に子宮体癌や多嚢胞性卵巣は糖尿病、高血圧に深く関わっています。近年、若年者の卵巣機能不全に多嚢胞性卵巣が増加し、不妊症の増加だけでなく高テストステロンによる男性化、肥満、糖尿病への移行が問題になっています。

当院は子宮癌症例、特に子宮体癌が多く、また多嚢胞性卵巣症例も他院に比して多い傾向にあります。当院の糖尿病センターと連携を持って対応し、成績も良好と自負しておりますので、該当症例がありましたら御紹介いただければ幸いです。

産婦人科

【再診・妊婦診は予約制】

* 5月1日より以下のように変更になります

	月	火	水	木	金
初診 (午前 9:00~)	中西 医師	加藤 部長	林 医師 栗山 医師	栗山 医師	斎藤 医師
再診 (午前 9:00~)	栗山 医師	斎藤 医師	加藤 部長	中西 医師	加藤 部長
妊婦診 (午後 1:30~)	中西 医師	加藤 部長	X	栗山 医師	斎藤 医師

病診連携室だより

病診連携について 中部労災病院医事課長 岩坪 均

この4月から中部労災病院の医事課長として赴任しました岩坪と申します。

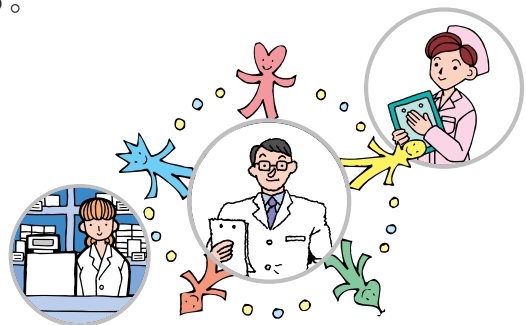
中部労災病院は、「病診連携室」を窓口として、登録医の先生方との連携に力を入れてきたところではありますが、今後も病診連携のさらなる強化に取り組んでいきます。

では、当院が登録医の先生方とさらに連携を深めるにはどうするべきか。やはり、一番重要なのは、双方のコミュニケーションを図ることだと考えています。紹介していただいた登録医の先生には速やかに返事を届けることと、病院から登録医の先生に逆紹介することです。

さらに紹介いただいた患者さんの経過報告が行えるようにすることも重要と考えます。以前、ある雑誌の「医療連携に関するアンケート」の中に「医療連携に取り組んでいる医療機関で連

携先の選択基準は」という質問（診療所向け）がありました。その結果、1位は「専門医がいる」、2位は「経過報告をしてくれる」、3位は「診療科目」というように、経過報告が重要視されているからです。

事務方としては、登録医の先生方と当院の医師等とのコミュニケーションを図る窓口として、連携システムを充実していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



病診連携室のご案内

受付時間	8:15~17:00 (平日)
受付方法	ファックス若しくは電話 052-652-5716 (FAX, TEL共用) ※土日、祝日及び時間外でお急ぎの紹介の場合 受付部署：救急部 電話番号：052-652-5511(代表) 内線250 FAX番号：052-652-5515
担当者	岡野 看護師長 金井 事務員

(責任者) 南木 副院長 岩坪 医事課長